
母よりも大きな、板チョコ

国後旺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

母よりも大きな、板チョコ

【NZコード】

N2026E

【作者名】

国後旺

【あらすじ】

我が家に、とても大きな板チョコが舞い降りた。（ジャンル：エッセイ）

だいぶ前のことだ

「仕事先でチヨン貰つたよ。板チヨン」「は？ あー、そう。で、それがどうし……」

お母さんとお母さんの胴体よりも大きな板チヨンを持っていた。

「でかすぎやるおー？」
「あなたの声もでかいって」

「なん、なん？ どうしたん？」

『』せんせん手にテレビ観てた姉が『』うちを振り向く。
「おお、ねーわが」どうでもこことだが、俺は姉をねーわまと呼んでこる。

「うわ！ でか！」

驚く姉。箸を落とした。

「やんなあ！？ でかすぎやんなあ！…？」

同意を求める俺。スルーされる。

姉はチヨンに夢中である。

「はー、こつやすつといね。ツルツルやん」「ねーちゃん。それはチヨンを包むビールよ」とだが、俺は姉をねーちゃんとも呼んでこる。
「分かつてゐつて」

となりで俺もチヨンを包むビールをペタペタ触る。うわー、う

わー、たまんねえ。

「ちゅ、お母さん、貸して貸して」

お母さんからのチヨコ奪還成功。ズシッと重い。

「こ、こんな重いチヨコ…初めてだ…ぜつ…」

「いや、流石にそこまで重くないやろ」

「クール過ぎるよ、母上」冗談が通じないお人だ。

姉が一階に上がる。ドタバタと駆け上がる。いつもは物静かなお人だが、興奮してらつしやるな。そんなときの姉は面白い。田代も冷めてるから、余計に面白い。数秒後、ドタバタと足音が近づいてきた。俺の予想だと…、

「ケータイ持つてきたー」 やっぱりね。こんなときの姉は、大抵カメラマンだ。

「ちょ、旺。チヨコ机に置いて

「へ？ あー、うん」 置いた。

「これでいい？」

「その上に手、置いてみ？」

「へ？ あー、うん」 置いた。

「そろばん」

パシヤ

なるほど。写真を見る。更に、なるほど、と思つた。お母さんも「なるほど」と言つた。

それから色々と『真をとつた。ちゅつと、至福のときである。

その間、テレビはつけたままである。もつたいないとか言わないで。

しばらべ経つて、俺達は正気に戻つた。正気に戻つた俺と姉が言った最初の言葉は、

「「「」」のチラリ、見る見る。」

「ーん。なやむ。

お母さん飽きて、テレビ観てる。

「じやあね、」

姉は嘔げ。

「今日は、お座敷に飾つておこう。」

飾つた。

俺達は、チラリを拝んだ。

その間、お母さんはテレビ観ながら寝てた。いや、もつたいない

でしょ。

(後書き)

一週間後には、チョコは消え失せました。甘かったです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2026e/>

母よりも大きな、板チョコ

2010年12月30日04時28分発行